

# 韓国人日本語学習者の外来語発音の アクセントの分析 -旧JLPT語彙を中心に-

鈴木美恵\*

(e-mail : mie927@naver.com)

## <目次>

- |                        |                                 |
|------------------------|---------------------------------|
| 1. はじめに                | 4. 分析結果                         |
| 2. 先行研究                | 4.1. NHK(2016)におけるモーラ別の外来語アクセント |
| 3. 研究対象と研究方法           | 4.2. 韓国人日本語学習者の外来語アクセントの生起      |
| 3.1. インフォーマントならびに分析対象語 | 5. 結論                           |
| 3.2. 分析方法              |                                 |

キーワード：韓国語母語話者 (Korean Native Speaker), 東京方言(Tokyo dialect), 平板(Heiban) 外来語アクセント(Loanword Accent), 特殊拍感覚(sense of the special mora), 対照研究(contrastive study)

## 1. はじめに

拙稿(2016)では、『NHK編日本語発音アクセント辞典』(1985、1998)と『明解日本語アクセント辞典』(2001、2014)の4冊から、JLPTの各レベルの語彙分野の外来語<sup>1)</sup>を抜粋し、年代の異なる両辞典に記載されているアクセント核を調べ、拍数別に比較分析し表記の差異についても調査した。本研究では、拙稿(2016)で考察したJLPTの各レベルの外来語を18年ぶりに改訂された『NHK編日本語発音アクセント新辞典(2016)』<sup>2)</sup>のアクセ

\* 牧園大学 教養学科, 助教授, 日本語音声学

1) 『NHKアクセント辞典』(1985、1998)と『新明解アクセント辞典』(2001、2014)を用いて、『日本語能力試験出題基準(2006)』の各レベルの語彙から抜粋した外来語のアクセント核はどうであるかを比較し考察した。

2) 2016年5月に18年ぶりに改正された『NHK編日本語発音アクセント新辞典』。

ント核を用い、無アクセント地域<sup>3)</sup>である忠清道出身の韓国人日本語学習者で、JLPT・N1を取得した20代の女性が発音した外来語のアクセント核の正確性と不自然さを中心に比較考察する。また、本研究は韓国人日本語学習者を中心とした日本語教育のアクセント指導の分野において有益な資料として提供することを目標とする。

## 2. 先行研究

外来語アクセントの先行研究として、李(1992)は、『NHKアクセント辞典1985年版』外来語のアクセント核を調査し、大部分の2拍、3拍語は原則的で頭高型、4拍語以上はマイナス3拍目に特殊拍やアクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語が多いため、マイナス4型、マイナス5型が多く現れている。また、古くから日本に流入し、日常生活で良く使われる語や縮約語が多いため、平板型が比較的多く現れる。5拍語以上では外来語だという認識の高い原語には第1音節にアクセントを置く傾向が見られると述べ、李(2018)では、年代の異なる5冊の『NHKアクセント辞典』<sup>4)</sup>を用いて、日本語の外来語アクセントの変化のパターン調査分析の論考がある。また、李(2009)は「母音の無声化」<sup>5)</sup>についても述べている。「母音の無声化」について、松森・新田・木部・中井幸比古(2012)は、東京方言であれば、ゆっくりと丁寧に発音しない限り、「ナガサキシ、タカマツシ」の下線部は無声化する。それによって、その部分はアクセントのもたらず高いピッチの山を担えなくなり、アクセントの山が前のほうにずれると論じている。

『新明解アクセント辞典』2001年版を用いて、日本語母語話者を対象にした外来語のアクセントに関する研究に坂本(2005)がある。この研究では、外来語が増加することによって、「0型アクセントが急増することはない。また、若年期からの英語学習が進み、原語アクセントの影響によって、4拍までは、1型を中心に増加する可能性が高く、特殊拍直前にアクセント核の来る型も増加し、5拍以上は、一般語と変わらずにマイナス3型が増える。」と述べている。

韓国語のアクセントの特徴について閔(1989)では、日本語のアクセントに比べソウル方

3) 韓国語は有・無アクセント方言の二つに分類でき、ソウル・忠清道は無アクセント地域である。

4) 1951年版、1966年版、1985年版、1998年版、2016年版の5冊。

5) 母音の無声化とは、母音「い・う」が無声子音に挟まれた時、文の最後に位置した時に母音「い・う」の声帯の振動がなくなって、母音が無声化すること。日本語では、カ行音・サ行音・タ行音・ハ行音・パ行音の子音が無声子音。

言は、発音の高低変化が顕著ではないため韓国人学習者が日本語のアクセントの最も重要な情報である下がり目と上がり目を意識することは極めて困難であるとし、Jun(2005)では、4音節語を基準にしたソウル方言の一般的なピッチパターンは[LHLH]と[HHLH]の2つ型で、Jun(2006)では、第1音節が有気音、硬音、摩擦音の場合にも[H]と意識するが、その他の音は[L]で始まると論じている。また、野間(2003)では日本語の「シーディー(CD)」と韓国語の「시디」を比較し、韓国人学習者の発音は「母語なぞり」現象であると指摘している。

拙稿(2016)では、『NHKアクセント辞典』と『新明解アクセント辞典』の外来語のアクセントのゆれを比較調査するために、『日本語能力試験出題基準』の各レベルの語彙から抜粋した外来語を、NHK1985年版、1998年版<sup>6)</sup>、明解(2001)と新明解(2014)の4冊の辞典に記載されているアクセント核を拍数別に分析した。この辞書別の分析調査では、2拍から5拍語の大部分が原則的に頭高型を示し、多くの差異は見られなかった。しかし、「NHK(1998)では、これまでの調査の結果がかなり定着した外来語についてのみ、外来語の平板アクセントも取り入れた。」論じているため<sup>7)</sup>、NHK1998年版は、新明解(2014)よりも平板型のアクセント表記が多く見られた。また、外来語の表記においても、新明解(2014)では単名詞で「アメリカ」と表記し、NHK1985年版では、「アメリカインディアン」のように、複合名詞の形に記載している。この結果、NHK・新明解辞典にはアクセントと表記にも差異が増加している。その要因としてみられるのは、新明解(2014)のアクセント辞典のインフォーマントは、東京方言話者のみを調査したアクセントを記載した辞書である。また、NHK(1998)のインフォーマントは、①アナウンサーで、放送で使用するのにふさわしいアクセントであるかの確認の統計と、②インターネットによる一般人からのアンケート調査の統計から選抜された辞典と見られる。その結果、両辞典には、改訂のインフォーマント自体にも差異があることを示したわけである。そこで本研究は、拙稿(2016)で行った外来語のアクセント核の分析結果を資料を用いて、無アクセント地域である忠清道出身の韓国人日本語学習者で、JLPT・N1の取得である20代の女性インフォーマントに発音してもらい、外来語のアクセント核の実現様相はどうであるかを分析し、『NHK編日本語発音アクセント新辞典(2016)』のアクセント表記に見られるアクセント核との比較調査を中心に考察する。

6) ここからは『NHKアクセント辞典』はNHK、『新明解アクセント辞典』は新明解と表記する。

7) 田中浩史(2017)「日本語発音における近年のアクセント傾向の分析と考察～NHK日本語発音アクセント新辞典の発行に寄せて～」『コミュニケーション文化学科紀要「コミュニケーション文化」』第11号、神谷印刷、p.66.

### 3. 研究対象と研究方法

#### 3.1. インフォーマントならびに分析対象語

日本語における外来語のアクセント変化を分析調査するにあたって、韓国人日本語学習者20代の女性20人をインフォーマントとした。無アクセント地域である忠清道出身で、JLPT・N1を取得したインフォーマントが発音した外来語のアクセント核の正確性と不自然さを中心に比較考察するためである。また、インフォーマント20人<sup>8)</sup>のうち正確率の高い4人を選び<sup>9)</sup>〈表7〉と〈表8〉に表した。

李(2016)<sup>10)</sup>の研究では、調査対象は、韓国人日本語学習者のJLPT・N1・N2・N3・N4レベルの大学生で、韓国の高等学校の教科書 I のカタカナ語21語を調査対象語とし、カタカナ語の発音に対する理解度の分析研究であった。

本研究の目的は、N1の取得の上級レベルの韓国人日本語学習者20代の女性インフォーマントのカタカナ語の発音の知覚率に影響を与えるのは①特殊拍の感覚の問題、特に語末の「一」の発音、②促音の感覚の欠如と同時に促音の挿入現象、③母音の無声化、④母語の影響、⑤拍数の長さ、⑥「ティ・ファ・フォ」などの音節の知覚の問題に実際に差が見られるかを調査するためである。インフォーマントは〈表1〉の通りである。

〈表1〉 インフォーマント

被験者	出身地	性別	年齢	職業
KF1	忠南大田	女	24才	大学生
KF2	忠南大田	女	22才	大学生
KF3	忠南大田	女	22才	大学生
KF4	忠南大田	女	22才	大学生

8) JLPT・N1を取得した忠清道大田出身の韓国人日本語学習者20代の女性インフォーマント。

9) JLPT出題基準の基礎的な外来語のアクセントを、無アクセント地域である忠清道出身の韓国人JLPTのN1を取得した、韓国人日本語学習者の20代女性をインフォーマントとして、発音の分析調査を実施した。ソウル出身の先行研究は見られるが、忠清道大田出身の分析研究は見当たらないために行った。〈表7〉と〈表8〉の表は、最も正確さの高かった4人の分析の結果を表示したかったため、4人の分析結果を表示した。また、〈表9〉から〈表15〉の表は、20人全体の発音者の傾向と正解率(%)を示した表である。

10) 李(2016)では、発音の分析は、東京出身日本語教師と拙者のみで行われたが、本稿は外来語数659語、2モーラから9モーラの外来語の発音を、東京出身日本語教師2人とアクセント辞典のアクセント核の分析であるため、正確性が高いものと判断できる。

本研究では、日本語教育の現場に必要な基礎資料を提供するため、調査対象語を JLPT 出題基準の語彙から抜粋した。JLPT 出題基準【改訂版】2006年3月の最終版の語彙から、レベル別に抜粋した外来語<sup>11)</sup>の数を表 2 に示す。

<表2> JLPT日本語の語彙レベル別外来語数

レベル	語彙全数	外来語の数	%
4級	728	62	8.51
3級	1,409	45	3.19
2級	5,035	336	6.67
1級	8,009	216	2.70
合計	15,181	659	4.34

### 3.2. 分析方法

調査資料は、<表2>のうちJLPT語彙のN1、N2の外来語を分析対象語として扱い<sup>12)</sup>、N1、N2の各外来語をあいうえお順に提示し、1つの単語を3回ずつ発音して頂いた。録音収集は2017年8月に各大学の静かな講義室で実行した。録音方法はSONY.PCM-D100で収録してから、WaveSurfer1.8.5を用いて2回目の音声<sup>13)</sup>を抜粋してアクセントファイルを作成した。次に、『NHK編日本語発音アクセント新辞典(2016)』のアクセント表記に見られるアクセント核とインフォーマントのアクセント核を聴聞し確認した。アクセント核の確認は、東京出身の日本語教師の2人が行った。

#### 11) JLPT出題基準【改訂版】

- ・2006年3月の最終版のレベル別に抜粋した外来語のアクセント核の調査を行った。2006年度の最終版を参考資料としたのは、それ以降には改訂版が出版されていないためである。また、これ以降に実施されている試験はJLPT出題基準を元にして出題され、新しい外来語の基準はその都度変化がみられることを、国際交流基金日本語能力試験出題基準出版部に直接電話連絡をして確認した。
- ・日本語能力試験は、1984年度に初めて実施され、国際的ならびにこの試験の社会的重要度も向上した。ただし、日本国内での教育課程はどの教科・科目においても学習指導要領を基準に行われるが、日本語能力試験においては各レベルに示されている認定基準を唯一の準拠として問題作成にあたっているため、試験問題作成者の便宜を図る「出題基準」を作成する事になった。

12) JLPTの語彙のN1・N2・N3・N4の外来語の中で、N1・N2を分析対象語として扱ったのは、アクセント辞典の表記にゆれの現れた外来語が最も多かったためである。

13) 録音した2回目の音声資料を用いたのは、1回目は準備の音声、3回目は終了の音声と判断されるため、音声の研究分野においては2回目の安定した音声を用いるので、2回目の音声を分析した。

## 4. 分析結果

### 4.1. NHK(2016)におけるモーラ別の外来語アクセント

N1のモーラ別の外来語のアクセントを<表3>に示す。この<表3>は語末からのアクセント核の位置を示したものである。

<表3> N1のモーラ別の外来語アクセント

モーラ	ア核	個数	%	外来語の例 (*は、ゆれのみられる単語)
2	-2	12	6.02	ジャズ、ショー、ソロ、ニュー、ネガ、バー など
	△	1		マイ(My)
3	0	4	37.5	アルミ、カレー、パンク、ボルト、
	0(-3)	2		パート*、バッジ*
	-2	2		ドライ、ブルー、
	-3	71		アップ、ガイド、ケース、カット、カップ、 など
	-3(0)	1		データ
	△	1		サボる
4	0	16	26.85	アマチュア、アルカリ、インテリ、インフレ、コメント など
	0(-4)	1		フィルター
	-3	11		ウイルス、クレーン、スチーム、ストレス、など
	-3(-2)	1		パトカー*
	-3(-4)	1		ガレージ
	-4	26		アクセル、オーケー、オープン、カクテル など
	-4(0)	2		タイトル、メーカー
	△	1		モーター <sup>14)</sup>
5	0	5	17.59	アルコール、カンニング、スプリング、タイミング など
	0(-5)	1		バッテリー(車)
	-3	12		アプローチ、アンコール、エアメール、エンジニア など
	-3(-2)	1		レンタカー
	-3(-5)	1		カムバック

	-4	3		カテゴリー、コマーシャル、スラックス、
	-4(0)	1		ドライバー
	-5	8		エレガント、コンテスト、セレモニー、タイムリー など
	-5(-3)	4		コンタクト、ユニホーム、アンケート、ユニフォーム
	△	2		ロープウェイ、テレックス
6	-3	7	6.48	ガイドブック、コントロール、チームワーク など
	-3(-2)	2		スポーツカー*、ドライブイン*
	-4	2		インターホン、デコレーション*
	-6(-3)	1		コントラスト
	△	2		ロマンティック、オーバーする
7	-3	2	2.78	インターチェンジ、サンタクロース
	-3(-4)	1		オートマチック (JLPTにはある NHK表記あり)
	-4	2		ティッシュペーパー、トランジスター
	△	1		オートマチック (JLPTにはある NHK表記なし)
8	-3	1	1.85	コンタクトレンズ
	-4	3		インターナショナル、インフォメーション など
9	-4	1	0.93	デモンストレーション
	-5	1		ドライクリーニング
合計	-	216	100	-

上記の<表3>は、JLPTの外来語のN1のモーラ別のアクセント核の特徴を示した表である。本研究でのアクセント核の基準は、NHK(2016)のアクセント核の表記を資料に用いることにした。『NHK編日本語発音アクセント辞典』は、その時代に、放送で使うのにふさわしいアクセントを改正の基準としていると判断したために用いたわけである。<表3>の表記「ア核」はアクセント核を意味し、2モーラの場合「-2」は頭高で、4モーラの場合「0・(-4)」は平板型と頭高の2つのアクセント核が表記されていることを意味する。15)「△」

14) NHK(1985)では、4モーラのモーテルは表記がなく、これをモテルと表記し、アクセント核は-3型(頭高型)で記載されている。

15) 「0・(-4)」の表記は、平板型と頭高の2つのアクセント核が表記されていることを意味するが、NHK(1998)9ページの「この本の使い方」に、「一語について、2種類、またはそれ以上のアクセントを示している語は、共通語アクセントが2種類またはそれ以上あることを示し、この場合には共通語アクセントとして、よりふさわしいと思われるものを先にした。また、新明解(2014)の4ページと初版の序で

はNHK(2016)にアクセント表記がない語彙を示したものである。N1の外来語のうちモーラ別の分析で最も多く見られた外来語の拍数の順序は、3モーラ(37.5%)の-3型が71個、4モーラ(26.85%)の-4型が26個、5モーラ(17.59%)の-3型が12個と、6モーラ(6.48%)の-3型が10個は同数であった。外来語の例は下記に示す。

- 1) 3モーラの-3型の外来語の例:  
アップ、ガイド、ケース、カット、カップ、カルテ、キャッチ、キャリアなど
- 2) 4モーラの-4型の外来語の例:  
アクセル、オーケー、オープン、カクテル、コーナー、コンパス など
- 3) 5モーラの-3型の外来語の例:  
アプローチ、アンコール、エアメール、エンジニア、オンライン など
- 4) 6モーラの-3型の外来語の例:  
ガイドブック、コントロール、チームワーク、ベストセラー、など

4モーラの-4型の外来語の「アクセル」、「カクテル」の場合は、クは母音が無声化して、アクセント核を1つ前にずらし-4拍目にアクセント核が来ている。「タイトル」も、語末から数えると-3拍目が特殊音ではないが、1つ前にずらし-4型と平板型アクセントになっている。この「アクセル」、「カクテル」は、クが無声音化し特殊音ではないが、1つ前にずらし-4型(頭高型)になっている。また、「アクセル」、「カクテル」、「タイトル」などのアクセントは、元々の英語の発音の影響を受けていると推測できる。この結果から、李(2009)、松森・新田・木部・中井幸比古(2012)の研究での「母音の無声化」について確認できた例である。

外来語の表記の部分では、「ユニフォーム」はJLPTは「ユニホーム」と表記されているが、N・新明解のアクセント辞典では「ユニホーム」と「ユニフォーム」の2つの表記があり、N・新明解のアクセント核は5モーラで、語末から数えて-5拍目と、-3拍目にアクセントを置き、また、「コンタクト」のアクセントも同様であると言える。この結果から、松森・新田・木部・中井幸比古(2012)の研究で、「東京方言の外来語のアクセントは、特殊拍ではなく、特殊拍が属している音節全体に置かれ、そのアクセントによってもたらされる下降は、各音節の中心にある母音の直後に出現する。」ことが確認できた例である。次に、

は、若い人たちの使うアクセント、外来語の平板型は、《新は》高年層の使用する古めかしいアクセントは《古は》《もとは》と表記されて、純粹の東京の発音をとり上げた。」と説明している。

英語の[comeback]はカタカナ表記では、「カムバック」と「カンバック」の2つがある。アクセント核は5モーラで、語末から数えて-5拍目と、-3拍目にアクセントを置く。英語の[ropeway]は、5モーラの平板型で、JLPTでの語彙表記では「ロープウェイ」と記載されているが、NHKでの語彙表記では「ロープウエー」と記載されている。また、英語の[transistor]は「トランジスター」と「トランジスタ」の2つの表記があるが、拍数は、6モーラと7モーラになり、「トランジスター」は語末から-4拍目に、「トランジスタ」は語末から-3拍目にアクセントを置く。このように外来語のアクセントは、日本に流入して、表記の基準は出版課程で決定され、年代別の調査の結果により、アクセントの改正も出版者によって基準が決定されているようである。5モーラの「カムバック」は-3(-5)であるが、「コンタクト」、「ユニホーム」は(-5)-3である。このゆれについては、本稿の7ページの注15の「共通語アクセントとして、よりふさわしいと思われるものを先にした。」とあるように、「カムバック」は、語末から-3拍目で、「ユニホーム」は、語末から-5拍目にアクセントを置く例である。また、<表4>はN1の外来語の中で、NHK(1998)のアクセント核からNHK(2016)にアクセント核にゆれがみられた単語の例である。

<表4>NHK1998年から2016年にアクセントのゆれがみられた単語 (N1)

	単 語	NHK1998	NHK2016
3モーラ	パート	-3(0)	0(-3)
	バッジ	-3(0)	0(-3)
	ファイト	-3(0)	-3
4モーラ	タレント	0(-4)	0
	チャンネル	0(-4)	0
	パトカー	-2(-3)	-3(-2)
6モーラ	スポーツカー	-2	-3(-2)
	ドライブイン	-2	-3(-2)

次に、N2の外来語のモーラ別の分析表を<表5>に示す。この<表5>も語末からアクセント核の位置を示したものである。

<表5> N2のモーラ別の外来語アクセント

モーラ	ア核	個 数	%	外来語の例 (*は、ゆれのみられる単語)

2	-2	25	7.44	カー、ガス、ガム、ゴム、シャツ、ジャム など
3	0	12	36.9	コップ、タイヤ、バケツ、ピアノ、ページ など
	0(-3)	3		ボール、ボタン、プラス *
	-3	95		ウール、オイル、オフィス、カード、カーブなど
	-3(0)	8		グラフ、ダイヤ、パンツ、メール、モデルなど
	-2	3		スキー、スター、フリー
	-2(-3)	1		ズボン
	△	1		インキ (NHKなし)
4	0	25	33.63	アイロン、アルバム、アンテナ、オルガンなど
	0(-3)	1		スケート
	0(-4)	1		メーター
	-2	1		コーヒー
	-2(0)	2		ローマ字、ハンカチ *
	-3	25		アパート、イコール、オレンジ、カセット など
	-3(0)	4		スタート、レポート、リポート
	-3(-4)	5		イメージ、スイッチ、ポケット、レコード など
	-4	38		ウーマン、オーバー、カーテン、カロリー
	-4(0)	1		サークル
	-4(-2)	1		アイデア
	-4(-3)	2		シリーズ、スリッパ
5	0	4	10.71	バイオリン、ボールペン、ランニング など
	-3	9		アルバイト、オートバイ、クリスマス など
	-3(-4)	1		クラシック
	-4	4		カレンダー、コレクション、プレゼント
	-4(0)	1		スピーカー *
	-4(-3)	1		スケジュール
	-5	7		インタビュー、コンサート、コンセント など
-5(-3)	3	エチケット、ピクニック、パイロット *		
6	-3	10	7.74	コンクリート、サンドイッチ、ジャーナリスト など
	-4	8		アナウンサー、エレベーター など
	-5	3		ウエイトレス、ストッキング、トレーニング
	-5(-3)	1		クリーニング

	-6(-3)	1		アクセサリー
7	-3	3	2.68	カセットテープ、プラットホーム
	-4	6		エスカレーター、オートメーション など
8	-4	1	0.6	テープレコーダー
	-3	1		ガソリンスタンド
9	-5	1	0.3	スーパーマーケット
合計	-	336	100	-

上記の<表5>は、N2のモーラ別のアクセント核の特徴を示した表である。N2の外来語のうちモーラ別の分析で最も多く見られた外来語の拍数の順序は、第一に、3モーラ(36.9%)の-3型が95個、第二に、4モーラ(33.63%)の-4型が38個、第三に、6モーラ(7.74%)の-3型が10個であった。外来語の例は下記に示す。

① 3モーラの-3型の外来語の例:

ウール、オイル、オフィス、カード、カーブ、カバー、カメラ、カラーなど

② 4モーラの-4型の外来語の例:

ウーマン、オーバー、カーテン、カロリー、キャプテン、キャンバス など

③ 6モーラの-3型の外来語の例:

コンクリート、サンドイッチ、ジャーナリスト、スーツケース、など

3モーラの「タイヤ」は、NHK(2016)では、平板型であるが、「タイヤ」は新明解(2001)では、語末の-3拍目にアクセントを置く。「ピアノ」はNHK(2016)では平板型であるが、新明解(2001)では《古は「ピアノ」「ピヤノ」》のように2つの表記があり、アクセントにも英語の影響が現れている例である。4モーラの「ハンカチ」は、NHK(2016)では、平板型と語末から-2拍目にアクセントが置かれているが、新明解(1994)には「ハンカチ」のアクセントは、語末から-4拍目に置かれ、「ハンカチーフ」のように表記にも差異が見られ、アクセントにも英語の影響が現れている例である。また、「コーヒー」の場合は飲物で、「カフェ」は店の位相上の違いのある例も外来語には見られる。5モーラの平板型の「バイオリン」は原語によく近い「ヴァイオリン」の表記がよく使われている。16)6モーラの

16) 2019年から「ヴァイオリン」の表記の「ヴァ」の表記は「バ」に改訂されることになった。時事通信社(2019.03.29)「国名から「ヴ」が消滅=河野外相「定着した表記に」」。

語末から数えて-4拍目の「オーケストラ」は特殊拍ではなく、スは母音が無声化して、アクセント核を1つ前にずらし-4拍目にアクセント核が来ている例である。また、〈表6〉はN2の外来語の中で、NHK(1998)アクセント核からNHK(2016)にアクセント核にゆれがみられた単語の例である。

〈表6〉

NHK1988年から2016年にアクセントのゆれがみられた単語 (N2)

	単語	NHK1998	NHK2016
3モーラ	インク	0(-3)	0
	パイプ	0(-3)	0
	メール	-3(0)	0
	プラス	-3(0)	0(-3)
4モーラ	サンダル	0(-4)	0
	ハンカチ	0(-2)	-2(0)
	ビタミン	-3(0)	-3
	エプロン	-4(0)	-4
5モーラ	スピーカー	-4	-4(0)
	パイロット	-3(-5)	-5(-3)

#### 4.2. 韓国語日本語学習者の外来語アクセントの生起

インフォーマントのN1の外来語モーラ別分析を〈表7〉に示す。この〈表7〉は語末からのアクセント核の位置と、インフォーマントKF1~4がそれぞれモーラ別にアクセント核をどの位置で発音しているかを単語の個数で示したものである。例えば、インフォーマントKF1はN1の2モーラの外来語単語13個中、アクセント核0で発音した単語数が4個、-2で発音した単語数が9個であるが、NHKアクセント辞典によると、単語13個中、12個のアクセント核の位置が-2である。この結果を比べてみることにより、韓国人日本語学習者による発音の不自然さを確認することができる。

〈表7〉 インフォーマントのN1の発音の分析表

モーラ	NHK アクセント辞典		合計	KF1 20代	KF2 20代	KF3 20代	KF4 20代
	ア核	個数					
2	0	0	13	4	4	5	3

	-1	0		0	2	2	0
	-2	12		9	7	6	10
	△	1		-	-	-	-
3	0	4	81	6	10	12	9
	0(-3)	2		0	0	0	0
	-1	0		0	1	0	7
	-2	2		27	21	21	20
	-3	71		48	49	48	45
	-3(0)	1		0	0	0	0
	△	1		-	-	-	-
4	0	16	58	12	9	14	7
	0(-4)	1		0	0	0	0
	-2	0		5	2	5	6
	-2(-3)	0		0	0	0	0
	-3	10		24	34	25	32
	-3(-2)	1		0	0	0	0
	-3(-4)	1		0	0	0	0
	-4	26		17	13	14	13
	-4(0)	2		0	0	0	0
	△	1		-	-	-	-
5	0	5	38	2	4	5	0
	0(-5)	1		0	0	0	0
	-2	1		4	3	5	3
	-3	12		25	21	22	27
	-3(-2)	1		0	0	0	0
	-3(-5)	1		0	0	0	0
	-4	3		5	7	4	4
	-4(0)	1		0	0	0	0
	-5	7		2	3	2	4
	-5(0)	1		0	0	0	0
	-5(-3)	4		0	0	0	0
	△	1		-	-	-	-
6	0	0	14	0	0	4	0
	-2	0		2	0	1	0
	-3	7		9	9	5	11

	-3(-2)	2		0	0	0	0
	-4	2		2	5	4	3
	-5	0		1	0	0	0
	-6(-3)	1		0	0	0	0
	△	2		-	-	-	-
7	-3	2	6	3	5	2	3
	-3(-4)	1		0	0	0	0
	-4	2		3	1	4	3
	△	1		-	-	-	-
8	-2	0	4	0	1	0	1
	-3	1		2	0	1	0
	-4	3		2	2	3	3
	-5	0		0	1	0	0
9	-3	0	2	1	0	0	0
	-4	1		1	1	1	1
	-5	1		0	1	1	1
合計	-	216	216	216	216	216	216

<表7>のN1の拍数の順序の例は次の通りである。

- 1) 3モーラ -3型：平均47.5個(21.99%)で最も多く見られる。  
NHKアクセント辞典の数値では71個(32.8%)で差がみられる。
- 2) 4モーラ -3型：平均28.75個(13.31%) NHKアは10個(4.6%)
- 3) 5モーラ -3型：平均23.75個(10.99%) NHKアは12個(5.6%) その他

インフォーマントのN2のモーラ別分析を<表8>に示す。この<表8>は語末からアクセント核の位置を示したものである。

<表8> インフォーマントのN2の発音の分析表

モーラ	NHK アクセント辞典		合計	KF1 20代	KF2 20代	KF3 20代	KF4 20代
	ア核	個数					
2	0	0	25	3	5	2	2
	-1	0		0	2	1	6

	-2	25		22	18	22	17
3	0	12	124	10	18	21	20
	0(-3)	3		0	0	0	0
	-1	0		0	1	1	6
	-2	3		43	40	39	34
	-2(-3)	1		0	0	0	0
	-3	95		71	65	63	64
	-3(0)	8		0	0	0	0
	-3,0	1		0	0	0	0
	△	1		-	-	-	-
4	0	27	113	25	8	16	9
	0(-3)	1		0	0	0	0
	0(-4)	1		0	0	0	0
	-2	1		12	17	10	11
	-2(0)	1		0	0	0	0
	-3	28		50	47	56	64
	-3(0)	2		0	0	0	0
	-3(-4)	5		0	0	0	0
	-4	38		26	31	30	27
	-4(0)	1		0	0	0	0
	-4(-2)	1		0	0	0	0
	-4(-3)	2		0	0	0	0
△	5	-	-	-	-		
5	0	4	36	8	1	4	3
	-2	0		5	5	3	1
	-3	11		20	24	24	28
	-3(-4)	2		0	0	0	0
	-4	3		2	2	3	4
	-4(0)	1		0	0	0	0
	-4(-3)	2		0	0	0	0
	-5	10		1	4	2	0
-5(-3)	3	0	0	0	0		
6	0	0	26	0	0	3	0
	-2	0		2	3	1	2
	-3	11		17	16	13	17

	-4	9		6	7	6	6
	-5	3		1	0	3	1
	-5(-3)	1		0	0	0	0
	-6(-3)	1		0	0	0	0
	△	1		-	-	-	-
7	-3	3	9	4	4	4	2
	-4	6		5	5	5	7
8	-3	1	2	1	1	1	1
	-4	1		1	1	1	1
9	-3	0	1	0	1	0	1
	-5	1		1	0	1	0
合計	-	336	336	336	336	336	336

<表8>のN2の拍数の順序の例は次の通りである。

- 1) 3モーラ -3型：平均65.75個(19.57%)で最も多く見られる。  
NHKアクセント辞典の数値では95個(28.3%)で差がみられる。
- 2) 4モーラ -3型：平均54.25個(16.15%) NHKアは28個(8%)
- 3) 5モーラ -3型：平均24個(7.14%) NHKアは11個(3%) その他

## 5. 結論

本研究では、拙稿(2016)で考察した外来語を『NHK編日本語発音アクセント新辞典(2016)』を用いてアクセントを調査し、無アクセント地域<sup>17)</sup>である忠清道出身の韓国人 JLPTのN1を取得した韓国人日本語学習者の20代女性をインフォーマントとして発音の分析調査を実施した。資料に用いた外来語はJLPT語彙のN1、N2の外来語である。では

17) 宇都木(2004)は語頭に激音や濃音が来る場合にピッチが高くなると指摘し、ソウル方言の引用形の4音節語までのピッチパターンを音声学的に分析し、次のように明らかにしている。

a.1音節語：下降調

b.2音節語：第1音節または第2音節においてピッチがピークに到達した後語末に向かって下降する。

c.3音節語・4音節語：第2音節においてピッチがピークに到達した後、語末に向かって下降する。

宇都木昭(2004)「朝鮮語方言における引用形のピッチパターン」『朝鮮語研究』2、朝鮮語研究会、pp.7-45.

今回の研究をまとめる。

N1とN2の外来語の結果から、李(1992)<sup>18)</sup>では、「2拍、3拍語は原則的で頭高型、4拍語以上は-3拍目に特殊拍やアクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語が多いため、マイナス4型、マイナス5型が多く現れている。」と述べているように、3モーラと4モーラには頭高が多く、4拍語以上の5モーラにはマイナス3型が6モーラにはマイナス5型が多く現れていることが確認できた。また、4モーラの「チャンネル」はマイナス3拍目に特殊拍があり、アクセント核を前にずらす音韻的な要素が含まれている語であるため、マイナス4拍目にアクセント核があると同時に平板型でもある。「タレント」、「フィルター」は語末から数えて3拍目が特殊核ではないが、同アクセント核でマイナス4拍目にアクセント核がある。「アクセル」「カクテル」の場合は、クは母音が無声化して、アクセント核を1つ前にずらしマイナス4拍目にアクセント核が来ている。「タイトル」も、語末から数えると3拍目が特殊音ではないが、1つ前にずらしマイナス4型と平板型アクセントになっている。この「アクセル」、「カクテル」は、クが無声音化し特殊音ではないが、1つ前にずらし-4型の頭高型になっている。また、「アクセル」、「カクテル」、「タイトル」などのアクセントは、元々の英語の発音の影響を受けていると推測できた。また、「ユニフォーム」はJLPTは「ユニホーム」と語彙表記されているが、両アクセント辞典では「ユニホーム」と「ユニフォーム」の2つの表記があり、両アクセント核は5モーラで、語末から数えてマイナス5拍目と、マイナス3拍目にアクセントを置き、「コンタクト」のアクセントも同様であると言える。このことは、松森・新田・木部・中井幸比古(2012)<sup>19)</sup>の研究で、「東京方言の外来語のアクセントは、特殊拍ではなく、特殊拍が属している音節全体に置かれ、そのアクセントによってもたらされる下降は、各音節の中心にある母音の直後に出現する。」として、語末から数えてマイナス3拍目の拍を含む音節にアクセントを置くことが確認できた例である。

第二に、李(2016)<sup>20)</sup>では、韓国人日本語学習者のカタカナ語の発音の知覚率に影響を与えるのは次の①～⑦の項目を提示しているが、本稿においても外来語のアクセント核にアクセントのずれや野間(2003)<sup>21)</sup>の「母語なぞり」現象が確認できた。

18) 李香蘭(1992)「日本語における外来語のアクセントの拍数別特徴」『東北大学文学部日本語学科論集』東北大学文学部日本語学科、第2号 p.13.

19) 松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)『日本語アクセント入門』三省堂、pp.124-133.

20) 李香蘭(2016)「日本語学習者のカタカナ語の発音知覚率」『日本文化学報』68、韓国日本文化学会、pp.240-253.

21) 野間秀樹(2003)「朝鮮語母語話者の日本語ピッチアクセント教育のために」『韓国語母語話者の

まず、①の<表9>は特殊拍の感覚の問題の例である。特に語末の「一」の発音は、JLPT1級の日本語学習者20人を対象にした調査で、N1の正解率40.6%、N2の正解率51.43%だったことから推測する事ができる。発音者のアクセントの傾向としては、全般的に平板型が多くみられた。

&lt;表9&gt;

単語	NHK (2016)	正解率 (%)	発音者の傾向/アクセント核：%
ショー	-2	5	平板型が多い/0：95%， -2：5%
ブルー	-2	0	平板型が多い/0：85%， -3：15%
タクシー	-4	0	-3が多い /0：45%， -3：55%
カテゴリー	-4	20	-3が多い /0：30%， -3：50%， -4：20%
ヘリコプター	-4	0	-3が多い /0：10%， -2：5%， -3：85%

②の<表10>は促音の感覚の欠如のアクセントの例である。

- ・「メッセージ」NHKはマイナス5 インフォーマントはマイナス3。
- ・「コップ」 NHKでは平板型 インフォーマントはマイナス3。
- ・「リットル」 NHKでは平板型 インフォーマントはマイナス4で、頭型になる傾向。

&lt;表10&gt;

単語	NHK (2016)	正解率 (%)	発音者の傾向/アクセント核：%
メッセージ	-5	5	-3が多い /-3：95%， -5：5%
コップ	0	5	-3が多い /0：5%， -1：25%， -3：70%
リットル	0	5	-4が多い /0：5%， -2：20%， -4：75%

③の<表11>は無声化された母音にアクセントは置かれない例であるが、インフォーマントの発音では無声化された母音にアクセントが置かれることが見られた。

&lt;表11&gt;

単語	NHK (2016)	正解率 (%)	発音者の傾向/アクセント核：%
ゲスト	-3	0	-2が多い /0：35%， -1：5%， -2：60%
アクセル	-4	10	-3が多い /-2：15%， -3：75%， -4：10%
ナプキン	-4	0	-3が多い /0：40%， -2：10%， -3：50%

ネクタイ	-4	0	-3と平板型が多い ／ 0 : 45%, -2 : 10%, -3 : 45%
レストラン	-5	0	-3が多い ／ 0 : 25%, -3 : 65%, -4 : 10%

④の<表12>は母語影響の例で、韓国語の影響によってアクセントが置かれている。

<表12>

単語	NHK (2016)	正解率 (%)	発音者の傾向／アクセント核 : %
アクセサリ	-6(-4)	5	-3が多い ／0 : 20%, -3 : 80%
ヘリコプター	-4	0	-3が多い ／0 : 10%, -2 : 5%, -3 : 85%

⑤の<表13>は拍数の長さの例である。各単語の拍数よりも長くなったり短くなったりした例で、エンジニアの場合、インフォーマントは“エンジニア”と発音している例である。

<表13>

単語	NHK (2016)	正解率 (%)	発音者の傾向／アクセント核 : %
エンジニア	-3	10	-2が多い ／0 : 20%, -2 : 65%, -3 : 10%, -5 : 5%
クリスマス	-3	15	-2が多い ／0 : 15%, -2 : 70%, -3 : 15%
オーケストラ	-4	0	-3が多い ／0 : 20%, -2 : 15%, -3 : 65%
アルバイト	-3	0	-2が多い ／0 : 5%, -2 : 85%, -3 : 5%, -4 : 5%
スーパーマーケット	-5	20	-3が多い ／-3 : 75%, -5 : 25%

⑥の<表14>は「ティ・ファ・フォ」などの音節の知覚の問題の例である。「ティ・ファ・フォ」が難しい理由は、韓国で使われている日本語の教材の発音部分に特別な発音に対する記述がなく、アクセント指導も行われないことが原因と見られる。

<表14>

単語	NHK (2016)	正解率 (%)	発音者の傾向／アクセント核 : %
----	------------	---------	-------------------

ファイト	-3	0	-2が多い / 0:5%, -2:95%
ファイル	-3	5	-2が多い / 0:5%, -2:90%, -3:5%
メディア	-3	10	-2が多い / 0:20%, -1:5%, -2:65%, -3:10%
ビルディング	-5	0	-3が多い / 0:5%, -3:90%, -4:5%

⑦は<表15>は拗音の例である。拗音が単語に含まれる単語をインフォーマントが発音したアクセントが、NHKのアクセント核と違いがみられた例である。

<表15>

単語	NHK (2016)	正解率 (%)	発音者の傾向/アクセント核: %
キャリア	-3	15	-2が多い / 0:25%, -2:60%, -3:15%
アマチュア	0	0	-2が多い / -2:70%, -3:30%
ニュアンス	-4	0	-3が多い / 0:10%, -3:90%
ワイシャツ	0	10	-3が多い / 0:10%, -2:25%, -3:65%
コレクション	-4	0	-3が多い / 0:20%, -3:80%

上記の①～⑦の結果、N1の正解率40.6%、N2の正解率51.43%で、インフォーマントのアクセントの傾向としては、全般的に平板型が多くみられた。不自然さは、モーラのタイミングのずれとアクセント核の位置のずれが原因と見られ、N1の取得者でも母語の影響が要因と見られたことから、今後の課題として、カタカナ表記の外来語のアクセントを指導する場合、日本語教師として、カタカナ表記の読み方、発音のどの部分が不自然になるか、また、特殊拍(長音、促音、撥音)のアクセントのずれや誤用をパターン化して、より効果的な学習指導を行うことを目標としたい。

### 【参考文献】

- 李香蘭(1992)「日本語における外来語のアクセントの拍数別特徴」『東北大学文学部日本語学科論集』東北大学文学部日本語学科、第2号、pp.13-24。
- \_\_\_\_\_ (2009)「日本語アクセント核のずれの要因について:外来語の音韻的な要因を中心に」『日本語文化研究』29、동아시아일본학회、pp.27-41.(DOI:http://doi.org/10.18075/jcs..29.200901.27)
- \_\_\_\_\_ (2016)「日本語学習者のカタカナ語の発音知覚率」『日本文化学報』68、韓国日本文化学会、pp.237-254。(DOI:http://doi.org/10.21481/jbunka..68.201602.237)
- \_\_\_\_\_ (2018)「日本語教育のための外来語アクセントの65年間の変化のパターン調査」『日本文化学報』76、韓国日本文化学会、pp.343-361。(DOI:http://doi.org/10.21481/jbunka..76.201802.343)

- 宇都木昭(2004)「朝鮮語方言における引用形のピッチパターン」『朝鮮語研究』2、朝鮮語研究会、pp.7-45.
- 金田一春彦・秋永一枝(1994)『明解日本語アクセント辞典』三省堂、pp.1-806.  
 \_\_\_\_\_(2014)『新明解日本語アクセント辞典』三省堂、序pp.3-6、pp.1-994.
- 国際交流基金(2006)『日本語能力試験出題基準』凡人社、pp.14-33、pp.54-117.
- 坂本清恵(2005)「外来語の音節構造とアクセント」『アクセント史資料研究会[編]論集』アクセント史資料研究会出版、pp.1-24.
- 塩田雄大(2011)「『NHK日本語発音アクセント辞典』改訂調査結果にもとづく作業方針の検討—アクセント辞典改訂専門委員会(第5回)から」『放送研究と調査』61(3):NHK放送文化研究所メディア研究部、pp.102-113.
- 鈴木美恵・崔英淑(2016a)「日本語における外来語のアクセントの分析—JLPT語彙の外来語を中心に—」『日本語学』73号、日本語文学学会、pp.69-95.  
 (DOI:<http://doi.org/10.21792/trijpn.2016.73.004>)
- \_\_\_\_\_ (2016b)「東京出身の世代別外来語のアクセントの比較分析」—JLPT語彙の外来語を中心に—『日本文化学報』70、韓国日本文化学会、pp.97-117.  
 (DOI:<http://doi.org/10.21481/jbunka.70.201608.97>)
- 田中浩史(2017)「日本語発音における近年のアクセント傾向の分析と考察—NHK日本語発音アクセント新辞典の発行に寄せて—」『コミュニケーション文化学科紀要「コミュニケーション文化」第11号、神谷印刷、p.66.
- 日本放送文化研究所・編(1998)『NHK編日本語発音アクセント辞典新版』NHK出版、pp.1-1023. 付録、p.10.
- 日本放送文化研究所・編(2016)『NHK編日本語発音アクセント新辞典』NHK出版、pp.1-1484.
- 野間秀樹(2003)「朝鮮語母語話者の日本語ピッチアクセント教育のために」『韓国語母語話者の日本語音声研究論集』東京外国語大学外国語学部鮎沢研究室、pp.57-60.
- 松森昌子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古(2012)『日本語アクセント入門』三省堂、pp.124-144.
- 関光準(1989)「韓国語話者の日本語音声における韻律的特徴とその日本語話者による評価」『日本語教育』68、日本語教育学会、pp.175-190.
- Jun,Sun-Ah(ed.)(2005)'Korean Intonational Phonology and Prosodic Transcription'prosodic Typology, Oxford University Press, pp.201-229.
- Jun,Sun-Ah(2006)「The Role of Intonaion in Sentence Processing」『인문과학연구』충남대학교, 33-1, pp.195-211.
- 時事通信社(2019)国名から「ヴ」が消滅=河野外相「定着した表記に」(2019.03.29)  
 (<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019032900149&g=pol>)

논문 투고 일자 : 2019. 05. 31. 논문 심사 일자 : 2019. 08. 02. 게재 확정 일자 : 2019. 08. 05.
----------------------------------------------------------------------------------

---

 < 要旨 >
 

---

 韓国人日本語学習者の外来語発音のアクセントの分析  
 -旧JLPT語彙を中心に-

鈴木美恵

拙稿(2016)では、『NHKアクセント辞典』(1985,1998)と『新明解アクセント辞典』(2001,2014)の外来語のアクセント核を比較調査するために、JLPTの語彙からレベル別に外来語を抜粋し、辞典に記載されているアクセント核を調べ、拍数別に分析した。

本研究では、拙稿(2016)で考察した外来語を『NHK編日本語発音アクセント新辞典(2016)』を用いてアクセント核を調べ、無アクセント地域である忠清道出身の韓国人日本語学習者20代の女性の外来語のアクセント核はどうか実現様相の比較調査を中心に考察した。その結果、李(2016)では、韓国人日本語学習者のカタカナ語の発音の知覚率に影響を与えるのは①特殊拍の特に語末の「一」の発音、②促音の感覚の欠如と促音の挿入現象、③母音の無声化、④母語の影響、⑤拍数の長さ、⑥「ティ・ファ・フォ」などの音節知覚の問題を挙げているが、本研究でも確認ができた。今後の研究としては、ゆれの現れた外来語において、『NHK編日本語発音アクセント新辞典(2016)』を用いて、韓国人日本語学習者の男女のインフォーマントを増やし、発音のデータの正確性や特徴を確認する比較調査を行い、外来語のアクセントを指導する場合、発音のどの部分が不自然かを分析し、特殊拍(長音、促音、撥音)のアクセントのずれや誤用をパターン化してより効果的な学習指導を行うことを目標とした。

 Analysis of Accent of Foreign Language Pronunciation of Korean  
 Learners of Japanese  
 -Focused on the old JLPT vocabulary-

Suzuki, Mie

This study analyses the accent nucleus of loanwords included in NHK Japanese Pronunciation Accent Dictionary (1985, 1998) and Shin-Meikai Japanese Pronunciation Accent Dictionary (2001, 2014). The loanwords were extracted from the JLPT vocabulary list in accordance with each level, surveyed their accent nuclei with respect to the aforementioned dictionaries, and examined them in terms of mora. In this research, the accent nucleus of the loanwords were studied and handled in Suzuki (2016) by consulting NHK Japanese Pronunciation Accent Dictionary (2016) and present a contrastive analysis of accent-nucleus patterns found in Korean women in their twenties from the province of Chungcheongdo, an accentless area. According to Lee (2016), the factors affecting the perception rates of “katakana”-words for Korean learners of Japanese are: (i) perception of special mora, especially the pronunciation of a word-final long vowel, (ii) lack of the perception of double consonants and insertion of double consonants, (iii) unvoicing of vowels, (iv) native-language transfer, (v) length of mora, (vi) perception of segments such as /tei/, /ɸa/, and /ɸo/, and so on. The present work confirms that these factors are indeed at work.